市公式 LINE
LINE ID @975lauty
WEBやSNSで情報発信中です！
市公式フェイスブック
https://m.facebook.com/fukutsu.city
市公式インスタグラム
https://www.instagram.com/fukutsucity/

全国の精鋭が激突

第11回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会予選会

女子駅伝の日本一決定戦の出場権をかけた予選会「第11回プリンセス駅伝in宗像・福津」が10月19日に開催されました。

宗像市から福津市を経由する全6区間42・195kmのコースに、全国から集まった31チームの実業団女子チームが挑み、白熱したレースが展開されました。沿道には多くの市民や出場選手の所属する団体が集まって、熱い声援が送られていました。また、宮司地区・津屋崎地域郷づくり推進協議会による手作りぜんざいや地域の特産品、あんずの里市利用組合による名物だんご汁などもふるまわれ、大会全体の雰囲気をさらに盛り上げていました。

激戦の末、全日本で史上最多7回優勝の三井住友海上が大会新記録で見事優勝を果たしました。この大会では、上位16チームが「クイーンズ駅伝」への出場権を獲得し、各チームが最後まで力を尽くす熱戦となりました。

▲福津市複合文化センター前を駆け抜ける5区の選手たち

スイーツ片手にまち歩き

第10回ふくつスイーツウォーキング

市内の観光スポットを巡りながら福津市自慢のスイーツを楽しむ「第10回ふくつスイーツウォーキング」が、11月8日に開催されました。

参加者はJR福間駅からスタートし、宮地嶽神社、海岸を通って駅に戻る約6・5kmを歩きながら、各ポイントでチケットと引き換えにスイーツを受け取っていきます。

宮地嶽神社門前町で松ヶ枝餅を受け取った参加者は冷めないうちに、その場で味わっていました。また、ガラポン抽選会も行われ、子どもたちが楽しそうにガラポンを回し、スイーツを受け取っていました。

▲ガラポン抽選会でスイーツを受け取る子ども

海の現状を知ってほしい

宗像漁協津屋崎支所がウニ割り体験を実施

「秋の健康フェスタ」が11月2日にトヨタ自動車九州宮田工場で開催され、宗像漁協津屋崎支所（以下、漁協）が、遠賀漁協波津本所職員や県立水産高校の生徒、県水産海洋技術センター職員と共に「ウニ割り体験」を行いました。

漁協は、トヨタ自動車九州株式会社や九州大学などと連携し、藻場再生を通じたブルーカーボン創出に取り組んでいます。津屋崎海域では、ウニの食害による藻場減少が問題で駆除が行われていて、漁協の内嶋和彦支所長は「海の環境や漁業者の取り組みに関心を持ってほしい」と語っていました。

▲ウニの割り方を伝える県立水産高校の生徒

地域の安全を守る新拠点

手光に福津消防署新庁舎が完成

福津消防署の新庁舎完成を記念して、11月1日に落成式と市民開放イベントが行われました。市民開放イベントでは、はしご車試乗や消防カレーの試食、放水体験など、普段は触れることのない消防の現場を身近に感じられる企画が並び、多くの市民でにぎわいました。

▲消防体験ではしご車に試乗する子どもたち

地域福祉充実へ継続寄付

明治安田生命保険相互会社福岡支社から寄付

地域の健康増進や介護・認知症対策、子育て支援に役立ててほしいとの思いのもと、明治安田生命保険相互会社から「私の地元応援基金」の寄付をいただき、11月18日に贈呈式を行いました。

寄付金は、地域福祉の充実などに幅広く活用します。

▲目録を掲げる福井市長と一瀬福岡支社長

海風と松林に包まれて

第12回海岸松林ウォークinふくま

福間漁港海浜公園を発着地点に、地域の自然を感じながら歩く「海岸松林ウォークinふくま」が10月26日に開催されました。秋の穏やかな空の下、親子連れなど368人が参加し、福間海岸の砂浜と松林を歩きながら心地よい時間を過ごしました。

▲地域の力で守られている松林を歩く親子

民生委員・児童委員と街頭啓発

オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン

こども家庭庁は、11月を「秋のこどもまんなか月間」と定め、その取り組みの1つとして「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」を実施しました。

市では11月7日にJR福間駅・東福間駅で、街頭啓発活動を行い児童虐待防止を呼びかけました。

▲啓発グッズを配布しました

街角カメラリポート

～読者の皆さんから寄せられた市内の出来事や旬の話題をお届け～

タイムカプセル思い出写真展

今回は広報ボランティア櫻井紀子さんからの投稿です

てくてくと散策していると福間駅近くにある島田義之商店の壁面に、神興小学校のタイムカプセルを埋めた当時や開封イベントの写真などが、まるでタイムスリップしたかのように掲出されていました。店主は「当時の子どもたちの様子を保護者や通行人にも見てもらえれば」と展示しているそうです。

当時、PTA会長だった福島さんは「2000年の記念に面白いことをやろうと企画し、先生や保護者、地域の協力のおかげでセレモニーを行うことができた」と振り返ります。

長さ50cm、直径30cmの塩ビ管に児童総勢554人の夢や手紙を入れて埋めました。25年の時を経た昨年の開封イベントには海外から帰国した人もいて約300人が参加。掘り出されたカプセルをいざ開封すると歓声が上がって、再会の場となり大成功でした。

福島さんは「ノウハウを次の世代の人たちにつないでいきたい」と笑顔で語り、新たな旅に向かって「神（じん）go！」と出発進行です。

▲島田義之商店の壁面に飾られた写真